

宇治市魅力発信検討委員会（第3回） 議事要旨

日時：平成27年1月21日（水）午前10時から

場所：うじ安心館 3階 大会議室

出席者：委員9名 事務局等6名 傍聴1名 報道関係者3名

1. 開会

- ・ 欠席者の連絡
- ・ 配付資料の確認

（資料1）宇治市魅力発信検討委員会（第3回）次第

（資料2）宇治市魅力発信検討委員会座席表

（資料3）宇治市魅力発信行動指針（最終案）

（資料4）高校生グループ対抗宇治のPR動画コンテストについて（報告）

2. 宇治市魅力発信行動指針（最終案）について

【事務局から説明】

- ・ 宇治市魅力発信行動指針（最終案）の概要説明

【質疑応答・意見交換】

（全体について）

- ・ 魅力発信のために何をすべきかが具体的に書かれていてすごくいい。これを読めば、自分たちは何をすべきが考えられるものとなっている。
- ・ 検討の中で市内の団体の話を聞き、特に若年層の意見も聞いたことで、これまでぼんやりしていた魅力発信がプラットフォームという形になった。
- ・ これまで魅力発信は市役所でも様々な担当部署で扱っていた。プラットフォームでの協議により窓口が一本化されるのは良いことだ。
- ・ 魅力発信のためのプラットフォームは他にもたくさんあるが、今回のように市民が住み続けたいと感じることを目指したものはこれまでなく、本当に大事なプラットフォームである。取組は慎重にやり、身のあるものにしてほしい。

（今後の課題）

- ・ ターゲットとしている若者のうち、学校教育の中では既に取組もなされているが、それ以外の子育て層などがどのように関わるかは課題であり、プラットフォームで検討していかなければならない。
- ・ 町内会の活動を負担に感じやめていく人が多い。コミュニティの魅力発信に

ついてもプラットフォームにあげ、市民が住んでよかったと思えるようにしていかないといけない。

- ・京都文教大学は市役所や地域と連携してタウンミーティングを行っている。こうしたものがプラットフォームの基礎になるのではないか。

(修正意見)

- ・3ページ。市の魅力として鉄道アクセスの良さを記載しているが、自動車アクセスの良さも記載した方が良いのではないか。
- ・3ページ。待機児童数の説明にある「国定義後の」がわかりにくい。カッコ書きで「(国の定義後)」とするのが良いのではないか。
- ・4ページ。「銘茶の代名詞」という言葉は、「高級茶の代名詞」という表現を使うことが多いので、修正してほしい。
- ・11ページ。市の役割として「財政支援をします」とあるが、プラットフォームから生まれたプロジェクトすべてに対して支援できるわけではないので、「取り組みます」という表現の方がよい。また、「窓口が一本化」については意義は別として、市組織の内部の話であり、記載する必要はないだろう。
- ・11ページ。魅力発信の仕組みとして、プラットフォームから協働プロジェクトにつなげ、財政支援にも取り組む流れを、図で説明するとわかりやすいのではないか。
- ・本会の意見交換を踏まえた最終的な修正は事務局に一任する。

4．高校生グループ対抗宇治のPR動画コンテストについて

【事務局から説明】

- ・高校生グループ対抗宇治のPR動画コンテストの結果報告

【質疑応答・意見交換】

- ・動画の公表はホームページだけでなく、市役所のホールなど市民の目につくところでモニターに繰り返し流すのが良い。
- ・今年は自由参加であったが、3月までに予めわかっていたら、授業として行うこともでき、もっと参加者は増えると思う。毎年のだ例行事にしてもよいのではないか。
- ・観光協会のボランティアガイド・クラブに隠れたスポットを紹介してもらうとかも面白い。将来的には参加者を一般市民にまで広げるとよい。

5．閉会

【事務局】

- ・ 検討委員会にて目指すべき方向が定まった。市としても身を引き締めつつこの取組を実施していかないといけない。また、市としてできる負担は担っていきたい。皆様には次年度も協力をお願いしたい。

以上